



発達障がいってなに？



A. 発達神経症ともいうね。

2016年に改正された発達障害者支援法では、発達障がいを「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障がいであってその症状が通常低年齢において発現するもの」と定めているよ。

だけど、これはあくまで行政上の定義にしかすぎなくて、精神医学の分野での分類や定義とはちょっと異なっているよ。

WHOのICD-11やアメリカ精神医学会のDSM-5では、発達障がいを神経発達症と呼んでいて、その中には知的発達症(知的障がい)や発達性発話・言語症(言語障がい)も含まれているんだ。

ここでは、日本の行政上の定義と重なる代表的な発達障がいとして、3つ挙げてみるよ。

自閉症スペクトラム(ASD)

法律でいう、広汎性発達障害と同じだけど、自閉症とアスペルガー症候群をまとめて考えているもので、このふたつは連続した関係にある、という意味でスペクトラムというんだ。

特徴として、発達早期から見られる対人的コミュニケーションと相互交流の困難、限定した興味や関心とその強いこだわり、感覚の過敏なんかがみられるよ。

ASDは発達障がいの中で中核になるといわれているよ。

注意欠陥多動症(ADHD)

法律でいう、注意欠陥多動性障害と同じだね。

注意の障がいと多動や衝動性がみられるよ。

学童期になっても「いつもひどく落ち着きがない」とか「集団行動が出来ない」とかいわれることが多いんだ。

勉強に集中できなかったり、忘れ物が多いなんかの問題が思春期以降も持続することがあったりするんだ。

発達性学習症・限局性学習症(LD)

知能の検査では正常範囲なんだけれど、読む・書く・計算なんかの特定の学習能力に困難があることをいうよ。

法律上の、学習障害の定義よりはやや狭いもので、ADHDと同じく、学童期になって気づかれることが多いよ。

LDは、思ったよりも出現率が高いんだけど、気づき難い障がいと言われているんだ。

この3つは、それぞれが単独で見られることは少なく、併せ持つことが多いんだ。

それぞれが独立したものではなくて、ひとりに見られる複数の特性の集まりと見なすほうが良い、とされているよ。

通常は、小児期から認められたりするけれど、さまざまなバリエーションがあって、各成長段階においてさまざまな要因がそれを修飾することが解っているんだ。

問題はそれだけじゃなくて、思春期以降、抑うつや不安なんかの[二次障がい](#)が目立ってくる場合があるよ。

[学校](#)に適応しにくかったり、いじめや[不登校](#)、引きこもりや非行の原因になったりするんだね。

二次障がい(うつ病、パニック症、強迫症、統合失調症など)のために初めてお医者さんに行つて、そこで背景に発達障がいがあることに気づかれることも少なくないんだよ。

[《MENU》](#)

[《脳性まひってどういうの？》](#)

[「児童福祉事業」って？》](#)

2022-02-28 掲載